

感動県政 あさのめ 新聞

埼玉県議会活動報告 2020.10.14 vol.69

発行 埼玉県議会議員 浅野目義英 〒330-0075 埼玉県さいたま市浦和区針ヶ谷2-7-8 TEL:048-762-7133

インフルエンザノココロナ
ダブル流行押さえ込む
急を要するとして何より先立ち、懸念されている季節性インフルエンザと新型コロナウイルス感染症のダブル流行に備えるための経費約21億、4千万が先行可決されました。



■埼玉県議会・9月定例会 ■1312億補正成立
感染症対策徹底し再拡大防げ
命と暮らしを守る経済支援を

埼玉再生の基軸つくれ

新型コロナウイルス感染症の検査件数増加への対応に約24億4100万円。検体採取の施設への医師等の派遣に1520万円。入院患者の受入に対する協力金の支給・看護職員手当に対する助成など、入院医療機関の病床確保等への支援に約549億3千万円なども可決されました。

放課後児童クラブを臨時休業した場合に市町村が保護者へ返還する日割り利用料に対する補助について、対象期間が延長されたこと等から、必要経費を増額。また地域子育て支援拠点事業等の相談支援体制の構築・強化に対する補助に約3億3580万円が可決されました。

感染症の影響で収入減少の方々に対象とした緊急小口資金等の特別貸付に係る原資の補助件数が大幅に増えていることから、必要経費約274億4952万円も可決されました。

児童養護施設出身者の県立大進学特別枠 浅野目の強い訴えで創設実現



児童養護施設いわつき

虐待を受けた。実の親が養育できない・児童養護施設で暮らす子供たちの主な入所理由です。施設の子供たちは、人として育つために不可欠な無償の愛を心にしみ込ませることなく不安な心を持っています。心が痛むところです。そのため、学習習慣が体得できない、不安から進

学を諦めてしまうなどのケースもあります。施設の子供の大学などへの進学率は28%、一般世帯の74%に比べ極めて低い状況にあります。そんな子供たちの大学進学の実現を後押しするべきだと、私は去年3月、本会議場で、県がもっている唯一の大学、埼玉県立大学で取組めないかと強く訴えました。

今年2月、要求が実り、来年度から同大に高校校長による推薦の上限人数に特例を設け、学科・専攻を問わず5人の児童養護施設等出身者を加えることになりました。私はすべての子供にチャンスのある社会をつくりたいと思っています。

あさのめ 事務所開設

益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。平素は温かいご支援を賜り厚く御礼申し上げます。さて、2020年9月1日より右の場所にあさのめ事務所を新たに開設いたしました。どうぞお気軽にお立ち寄り下さいませ。

〒330-0075
さいたま市浦和区針ヶ谷2-7-8 (中山道沿い、そろばんUSA近く)
TEL048-762-7133 FAX048-762-7144



あさのめ事務所

AM10:00~PM16:00 (休業日土・日・祝)

日時 2020年11月22日(日) 令和2年
開場 17時30分 開会 18時00分 閉会 19時30分

第19回

県政報告会

コロナ感染防止対策徹底



Live 配信決定!
LIVE公開ページ あさのめHP内

第13回 文化フォーラム 上田 清司 (うえだ・きよし)



1948年福岡県生まれ。法政大学法学部卒業、早稲田大学大学院政治学研究科修了。新自由クラブ立党に参画、同党政策委員、全国青年局長。政策科学研究所政策委員。1993年衆議院議員(3期)2003年埼玉県知事(4期)総務省顧問、内閣地域主権戦略会議委員、全国知事会長などを歴任。2019年参議院埼玉県選挙区補欠選挙当選。2019年参議院議員。

第19回 県政報告会 浅野目 義英 (あさのめ・よしひで)



1958年東京都生まれ。山形県米沢市育ち。法政大学社会学部卒。小学校教員を経る。さいたま市隣接の上尾市で全国最年少の25歳で市議初当選。地縁血縁の無い中で市議連続4期当選(25~41歳)。37歳で全国最年少議長。上尾市長選挙次点敗退。予備校講師、鮎井屋でひたすらマグロを切る仕事、代議士政策秘書など、政治家7年余を経る。

2007年、埼玉県議会議員トップで初当選。以来4期連続当選。埼玉県庁の中に6,400㎡の緑の広場をつくらせる、全盲の中学校教師を現場に戻す、硫黄島から帰還するご遺骨を入間航空基地で知事に出迎えをさせるなど、必ず成果を上げる実力派県議として知られる。

会場 ロイヤルパインズホテル浦和
●さいたま市浦和区仲町二丁目5-1 4Fロイヤルプリンセス

会費 無料 お体ひとつでお越しくださいませ。
お問合せ TEL048-762-7133・FAX048-762-7144
30分に1回の換気休憩をします。お隣と1.5mの距離をとります。

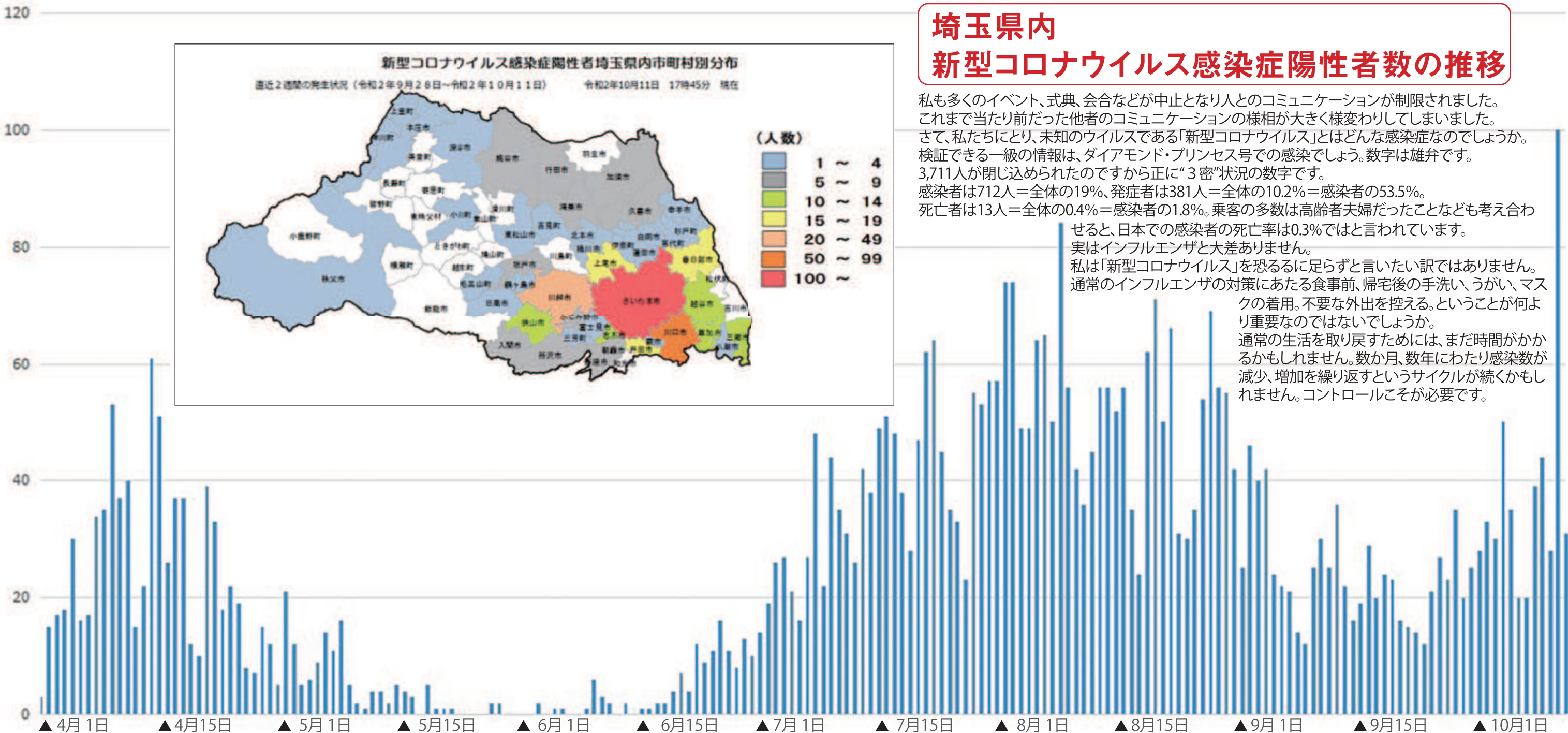
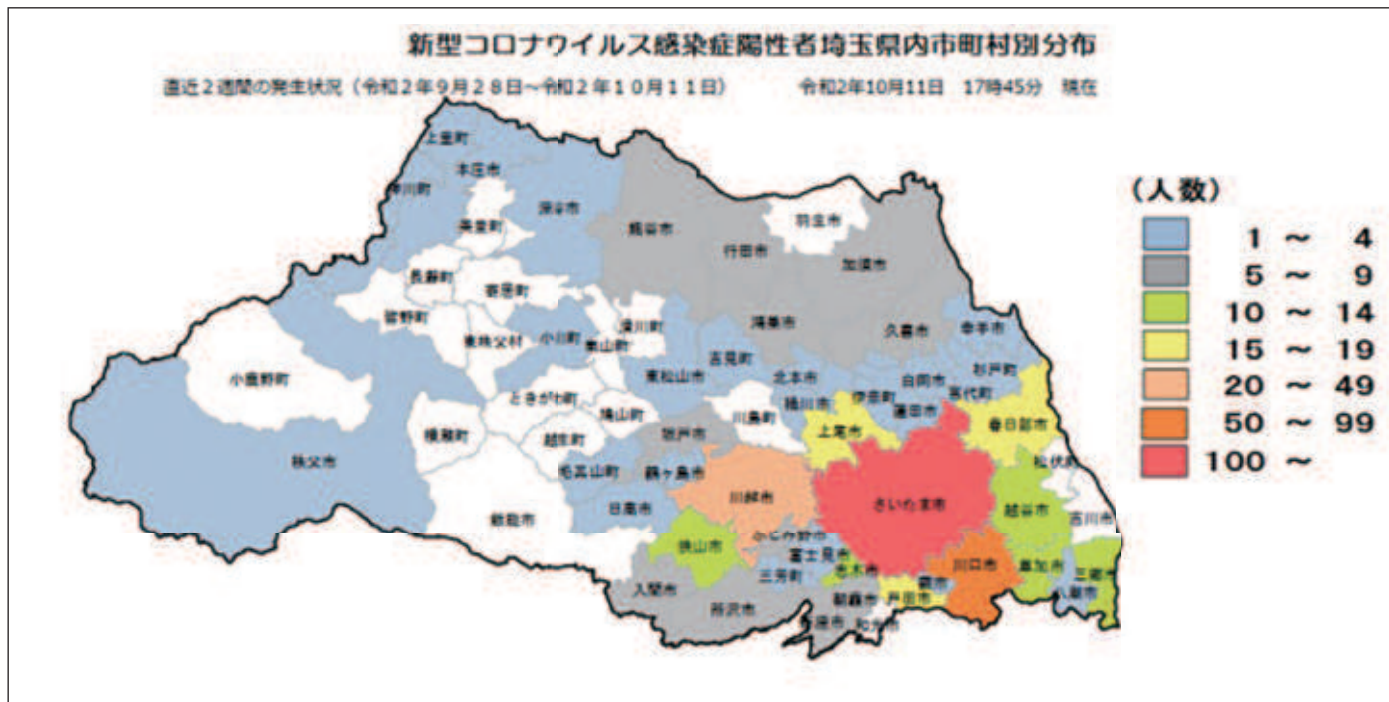


- 【お願い】
誠に心苦しく存じますが、現下の情勢により以下のお客様につきましてはご来訪をお控え頂きますようお願いいたします
- 現在体調がすぐれないお客様、以下のような症状のあるお客様。
(咳、呼吸困難、全身倦怠感、咽頭痛、鼻汁・鼻閉、味覚・嗅覚障害、目の痛みや結膜の充血、頭痛、関節・筋肉痛、下痢、嘔気、嘔吐)
 - 医師から外出を控えるよう指導されているお客様。
 - 過去2週間以内に新型コロナウイルス感染症陽性とされた方との濃厚接触があるお客様。
 - 来訪時の手指消毒にご協力ください。消毒液を用意させていただきます。
 - マスクを着用し、咳エチケットにご協力ください。

埼玉県内 新型コロナウイルス感染症陽性者数の推移

私も多くのイベント、式典、会合などが中止となり人とのコミュニケーションが制限されました。これまで当たり前だった他者のコミュニケーションの様相が大きく様変わりしてしまいました。さて、私たちにとり、未知のウイルスである「新型コロナウイルス」とはどんな感染症なのでしょうか。検証できる一級の情報、ダイヤモンド・プリンセス号での感染でしょう。数字は雄弁です。3,711人が閉じ込められたのですから正に“3密”状況の数字です。感染者は712人＝全体の19%、発症者は381人＝全体の10.2%＝感染者の53.5%。死者は13人＝全体の0.4%＝感染者の1.8%。乗客の多数は高齢者夫婦だったことなども考え合

せると、日本での感染者の死亡率は0.3%ではとされています。実はインフルエンザと大差ありません。私は「新型コロナウイルス」を恐るに足らずと言いたい訳ではありません。通常のインフルエンザの対策にあたる食事前、帰宅後の手洗い、うがい、マスクの着用。不要な外出を控える。ということが何より重要なのではないのでしょうか。通常の生活を取り戻すためには、まだ時間がかかるかもしれません。数か月、数年にわたり感染数が減少、増加を繰り返すというサイクルが続くかもしれません。コントロールこそが必要です。



- 4/1 学校臨時休業開始
- 3/2 県立高校・中学校
- 3/29 志村けんさんコロナで死去
- 4/7 県立特別支援学校休業決定
- 4/8 伊勢丹浦和店、コロンが休業に入る
- 4/13 緊急事態宣言(第2弾)発令
- 5/1 伊勢丹浦和店再開
- 5/12 彩の国「新しい生活様式」安全宣言が出される
- 5/18 コロン再開
- 5/25 緊急事態解除宣言、外出自粛要請の解除
- 5/30 伊勢丹浦和店再開
- 6/15 世界で感染者数1千万人超え
- 6/22 制度融資の融資枠拡大(800億円→1兆2000億円)
- 6/22 全都市医師会に発熱外来PCRセンター設置
- 6/22 県立学校通常登校開始
- 6/22 大野知事「再拡大期に入った」との認識示し、必要病床240↓600へ増やす
- 7/3 GoToトラベルキャンペーンがスタート
- 7/10 県立高校入試の出題範囲縮小を決定
- 7/10 国内の死者1000人超える(クルーズ船除く)
- 7/28 世界の感染者数2000万人を超える
- 8/8 感染者84人。県内過去2位
- 8/11 4~6月期GDPが年率▲27.8%
- 8/17 県の感染者数約37億が判明
- 8/22 県内の企業倒産件数36件、負債総額約37億が判明
- 8/28 「コロナ不安の妊婦、公費でPCR検査受けられる」と発表
- 9/17 県、新型コロナウイルス専用医療施設整備320床に対し補助を発表
- 9/18 世界の感染者数3000万人を超える
- 10/1 GoToトラベルキャンペーンの対象に東京都発着も追加
- 10/3 感染者35日ぶりに50人超え
- 10/10 クラスタ発生

●**コロナウイルス世界で100万人の死者。感染拡大に立ち向かう埼玉県**
 中国で最初の死者が出たのが今年1月。死者最多は米国(約20.5万)でブラジル(約14.2万)、インド(約9.6万)と続きます。日本の死者は1568人、埼玉県は102人です。世界の中で見れば、エイズやマラリアの年間死者数を超え、結核(150万人)にも迫る勢いです。しかも拡大のスピードは突出しています。仕事、学校、イベントなど私たちの普通の生活に影響を与え、不安なものになっています。埼玉県では5月12日、彩の国「新しい生活様式」安全宣言を内外に示し、新型コロナウイルス感染症拡大防止のために、これを遵守すること、また積極的に取り組むことを強く求めています。(数字はいずれも9月29日付)

●**PCR検査数増え致死率低下したものの陽性者数の減少スピード遅い**
 当初は検査体制が十分に整わず、症状がみられる人を中心に検査していました。よって検査で確定できたのはわずかで致死率が高くなる傾向がありました。その後、日本での致死率は下がっています。検査数増加、院内感染対策、治療法が改善したことなどが理由とされています。埼玉県でも当初わずかであったPCR検査能力は、5月から順次地域医師会が本格稼働したこともあり、7月には2960件に。重症化しやすい人を早く診断・治療することで、亡くなる方を減少させる効果があったとみられます。

●**未知の感染症拡大。封じ込めのために、総力結集しなければならない**
 国の「令和2年度一般会計新型コロナウイルス感染症対策予備費使用」の閣議決定を踏まえ、県で検査・医療提供体制の強化などに要する経費について902億8,353万8千円の補正予算が編成され、10月14日可決成立しました。主なものは、インフルエンザ流行期の発熱患者増加に備えた抗原検査費用の増額、県が指定する「診療・検査医療機関(仮称)」の体制確保支援、体制整備協力金の創設、国が配布する個人防護具の保管・配送、重点医療機関に対する病床確保料の増額などです。まだまだ収束が見えないコロナですが、総力を結集して感染を抑え込まなければなりません。